

ネットワーク理論・グラフ理論を用いたリンパ流路の可視化に関する観察研究

1. 研究の対象

2010年に原発性肺癌に対して手術を受けられ第7次全国肺癌登録調査に登録された方

2. 研究目的・方法

原発性肺癌に対する標準治療は、「肺葉切除+肺内・肺門・縦隔の各リンパ節郭清」です。切除すべき縦隔リンパ節の範囲として、海外（欧米）のガイドラインでは、腫瘍が存在する肺葉によらず一律に上縦隔から下縦隔までの広範囲な郭清（系統的リンパ節郭清）が標準とされています。

一方、1990年代以降、本邦からリンパ節転移形式に関する後ろ向き研究が行われ、腫瘍が存在する肺葉毎に転移し易い縦隔リンパ節と転移が稀な縦隔リンパ節が存在することが明らかとなってきました。原発性肺癌における複雑なリンパ流路を原発巣の部位や病理組織型毎に明らかにすることで、リンパ節郭清の範囲をより最適化することができます。ネットワーク理論・グラフ理論はモノとモノとの関係を研究する学際分野であり、通信、SNS、代謝ネットワークの研究に用いられています。この理論を原発性肺癌のリンパ節転移解析に用いることでより詳細な解析が可能となることが期待されます。

日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本胸部外科学会は協同して肺癌登録合同委員会を設置し、日本での肺癌の発生や予後にかかわる因子を明らかにし、肺癌の予防、診断、治療の向上に寄与することを目的として日本での肺癌症例の登録、解析を行なっています。肺癌登録第7次事業（2010年初診外科症例の登録事業）は全国296施設より19,873件が登録されました。本研究では第7次全国肺癌登録調査データ（2010年初診外科症例）を用いて解析を行ないます。本研究の目的は原発性肺癌における複雑なリンパ流路をデータマイニングの手法を用いて可視化することです。臨床情報・病情報（組織型・病期病期・リンパ節転移部位など）の項目情報から、リンパ節部位ごとの転移情報（あり・なし）をネットワーク理論・グラフ理論を用いて解析します。研究実施期間は研究許可日から2029年03月31日までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

臨床情報（年齢・性別・臨床病期など）・病情報（組織型・病期病期・リンパ節転移部位など）等

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

国立がん研究センター中央病院 吉田幸弘

岡山大学環境生命科学研究科 佐伯望

肺癌登録合同委員会

第7次事業WG委員

委員長 岡見 次郎

委員 伊藤 宏之

委員 大塚 崇

委員 豊岡 伸一

委員 森 毅

肺癌登録合同委員会委員

委員長 伊達 洋至

委員（外科） 新谷 康

委員（外科） 浅村 尚生

委員（解析） 宮岡 悦良

委員（外科） 中西 良一

委員（外科） 門倉 光隆

委員（外科） 遠藤 俊輔

委員（外科） 千田 雅之

事務局長 吉野 一郎

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者・研究代表者：

国立がん研究センター中央病院呼吸器外科 医員 吉田幸弘

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

2020年9月25日 第1.1版

TEL : 03-3542-2511